

2015年  
入試用

## 学校説明会レポート



市進

# 東京都立西高等学校

日時	2014年 5月29日(木) 10時30分~12時30分
所在地	杉並区
会場	視聴覚ホール
対象	塾
出席者数	約100名
配付資料	2015年スクールガイド、26年入学者選抜資料、説明会資料

## 説明会の概要

### あいさつ

宮本校長 10:30~10:55

- どうして西高を受験したかというアンケートで、生徒の8割が自由な校風、6割が雰囲気が良い、5割が進路実現できそう、という回答を選んでいます。創立以来の、自由でのびのびとした校風に魅力を感じてくれていることを嬉しく思います。
- 本校は、進学校ではありますが、受験校ではありません。育てたい生徒像は「国際社会で活躍できる大きな器を持った人間」です。そのために「文武二道・自主自立」を教育理念に、将来を見通す進路指導を心がけています。一人ひとりが文武二道を極め、バランスの取れた人間になること、そして自分で考え判断して行動するリーダーの資質として、自主自立の精神を育成すること、を目指しています。
- 本校は、①言語能力の向上、②探究活動の重視、③教養講座の充実、④キャリア教育の充実、⑤グローバル社会への対応、を5つの柱として取り組んでいます。⑤では、インドネシアや中国、アメリカへ生徒を派遣するほか、都の教育委員会から留学の支援を受けています。また、アメリカのハーバードビジネススクールやMITとの交流を行う海外研修プログラムを実施しています。希望者が多く、選抜された40名が4ヶ月間の準備期間を経て参加しています。
- 2014年の入学者選抜では、英数国がグループ作成問題となりました。数学では1問を独自問題に差し替えました。平均点が各教科とも50~60点に収まり、適切に選抜ができたと考えています。2015年入試も同様になるように考えていますが、詳しくは10月に発表されます。

### 教育課程等について

野坂先生 10:55~11:15

- 50分授業で、週3回7時限があります。本校は受験校ではないので、土曜日にさまざまな課外活動を行うため、土曜授業は設けていません。
- 2年次までは文系・理系に分かれず、全員が社会科学・自然科学の両方を広く学ぶカリキュラムを組んでいます。広く学ぶことは、大学に入学後も伸びる生徒を育てるという本校の方針の表れです。
- 入学選抜については、推薦は倍率が高いですが、2回受験する機会があるという風にかけて挑戦してもらいたいと思います。他校は推薦における評定の割合を50%としていますが、本校は40%です。学力選抜とは違った切り口で生徒を選抜したいとの考えからです。作文では理解力・思考力・表現力を見ますが、作文の問いが「次のことばについて、あなたが感じたり思ったりすることを600字以内で述べなさい」となっています。感じたり思ったりという部分が問われていることを忘れないように書いてください。

### 進路指導等について

秦野先生 11:15~11:25

- 本校の進路指導では、1年次で自己理解、2年次で大学・学部研究、3年次で実力養成を目標に掲げています。書き込み式の進路ノートを各学年とも4月に配布し、各自の進路選択に役立てています。
- キャリア教育として、将来の職業選択の一助となるよう、卒業生による大学ガイダンスや、社会の第一線で活躍している卒業生の話を聞く機会が設けられています。
- 生徒の学力を把握・分析するため、校内作成問題による実力考査を年2回実施するほか、全国的な力をはかる外部模試も取り入れています。
- 夏休みの補習や講習は、3年生中心に約80講座開かれています。自習室は夜8時まで利用することができ、東大などに現役合格した卒業生がチューターとして常駐しています。
- 例年、現役での大学進学率は50%強です。進学者のうち、約9割の生徒が国公立大や早慶上理の難関大学に進学していると言えます。2014年の東大への合格者数31名は、全国18位で、公立高校の中では全国3位でした。

### 生活指導等について

田原先生 11:25~11:45

- 本校を定義するなら、活力ある進学校と言えます。都立高校の中ではダントツで自由な学校と言われていますが、秩序が保たれ、生徒たちは信頼されて高校生活を送っています。
- 記念祭（文化祭）や運動会、クラスマッチなどの行事は、それぞれで実行委員会が組織され、企画・運営されます。
- 1年生は入学してから、運動会、中間考査、クラスマッチ、期末考査、志賀高原での3泊4日の林間学校と、7月まで大変忙しい日を送ることになります。
- 部活動は40以上あり、初心者でも気軽に入部できるところが本校の良いところです。

- 生活指導では自覚を促す指導を基本としており、生徒が納得するまで辛抱強く指導を行っています。

## 入試について

11:45~12:30

- 【変更点】 高校入試→詳細は10月に公表

- 国語 堀米先生

構成は大問5題で、大問1は漢字の読み、大問2は書き取りでした。読みでは「酷吏」が読めていませんでした。大問3は文学的文章、大問4は説明的文章でした。大問4は配点が35点と高く、問3はキーワードにふれて記述する問題、問6は250字の作文でした。作者の考えをしっかりと読み取ったうえで書く必要がありましたが、やはり記述する問題は難しかったようです。大問5の現古融合問題は時間が足りなかったようで、全体的に正答率が低かったです。単語力・語彙力不足で、古文と現代文を対照させながら文章全体の意味を読み取ることができなかったようです。

- 英語 平山先生

2014年は大問3題で、2013年より1題減りました。リスニングは、記号で答えるA問題と英語で答えるB問題がありましたが、両問題とも2013年より正答率が下がりました。問題文は2回流れますが、1回目で確実に聞き取るのは難しくなっているにもかかわらず、生徒は次の問題が気になって2回目の放送をきちんと聞かない傾向があるようでした。大問2は対話文、大問3は公害に関する論説文でした。大問3一問8は、環境問題に関する作文で、何に興味を持っているか、それはなぜか、まで答える必要がありましたが、英作文は難しいようで、正答率は24.1%でした。グループ作成問題では1000ワードを超える長文が出題されるので、最後まで読み通す力をつけてほしいと思います。作文対策としては、教科書で出てきた表現を使って書く練習をしてください。

- 数学 鈴木先生

2014年入試は、大問4題は変わりませんでした。小問合計数が例年の15問から1問減りました。大問1一問1は、約分や有理化、通分のミスが目立ち、最初の計算問題でありながら、正答率72.4%と予想より低くなりました。大問1一問5の作図から答えを求める問題は、正答率54.7%で、難しかったようです。全体の得点率ということでは、大問3一問2がポイントで、その問題に時間を使ってしまった生徒が多いのか、そこから後半の正答率がガクンと下がりました。最後の大問4は敬遠されたのか、解いている生徒自体が少なかったです。

### 説明会の雰囲気・印象

- 先生方の熱意が伝わってくる説明会でした。

### 学校周辺の環境

- 静かな住宅地の中にあります。

### 交通

- 京王井の頭線・久我山駅から 徒歩 10 分  
JR 中央線・荻窪駅から バス便あり